

令和5年10月26日

水戸市長 高橋 靖 様

水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議

座長 佐川 泰弘

水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事業等の評価について（意見）

当会議におきまして、令和4年度に実施した「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）」に位置付けた事業、地方創生関係交付金事業及び地方創生応援税制活用事業の評価並びに「(仮称)水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第3次）（水戸市デジタル田園都市構想総合戦略）」の策定基本方針について、慎重に審議いたしました。

それを踏まえ、今後の事業推進や新たな総合戦略の策定基本方針に対する意見について、下記のとおり提出いたしますので、貴職におかれましては、本意見を十分に考慮し、現総合戦略の取組推進と次期総合戦略の策定を進められるよう要望いたします。

記

1 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）に位置付けた事業等の評価に対する意見

- (1) 新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の緩和が進み、社会が活発に動き出してからは、Uターン就職を希望する傾向の低下が感じられることから、その原因を分析し、更なるUターン就職の促進に努められたい。
- (2) まちなかににぎわいを創出し、地域経済の活性化を図るため、デジタルとアナログの長所を組み合わせるなどした新たな業態の支援にも取り組まれたい。
- (3) 若者が就労し、定住しやすい環境づくりに向け、市内でビジョンを共有し組織間の連携を図るとともに、民間事業者とも連携を図りながら、まちなか全体の活性化に取り組まれたい。
- (4) 新型コロナウイルスの影響により人員を削減せざるを得なかった業種においては、観光客数の回復とともに人員不足が生じている状況であり、市においても各業種における人材確保に向けた取組の支援に努められたい。

- (5) 水戸市民会館の開館による効果をまち全体に波及させるため、水戸市民会館来館者の Mitori0 地区にとどまらない周辺商店街への回遊性を高める仕掛けづくりに取り組まれない。
- (6) Mitori0 地区をはじめ、歴史や自然など、それぞれのエリアの特徴を生かした拠点づくりを進め、まちなか全体の活性化に取り組まれない。
- (7) 移住支援金事業について、本来の趣旨である県内及び市内企業への就労を要件とした方への支給が少なく、テレワークへの支給が多くなっている。その要因を明らかにするため、引き続き、制度内容や運用方法の研究に取り組むとともに、県と連携し、支援金対象法人の拡充などの取組を進め、就労を要件とした移住の促進を図られたい。
- (8) 立地適正化計画に基づく施策の推進に当たり、機能の休廃止の状況を踏まえて、実効性のある施策を展開されたい。

2 「(仮称)水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第3次)(水戸市デジタル田園都市構想総合戦略)」策定基本方針に対する意見

- (1) 若い世代の人材の確保に向けては、デジタル技術やデータサイエンスの知識・能力を身に付けた若者自身が、水戸で活躍できると感じられることが重要である。そのため、事業者と連携しながら、若者が身に付けた力を生かせる環境づくりにも取り組まれない。
- (2) デジタル田園都市構想に取り組む姿勢を示すため、新たな総合戦略の柱としてデジタル関連項目についても位置付け、市としてどのようなデジタル化に取り組むのかを明らかにされたい。
- (3) 若い世代の流出を抑制し、定住を促進していくためには、郷土愛の醸成等を図る水戸スタイルの教育の推進をはじめとする「ひと」の育成が重要であるため、教育に力を入れて取り組まれない。
- (4) デジタル化・DX の推進を図る一方で、「誰一人取り残さない」という国のデジタル化社会の実現に向けた考え方を踏まえ、高齢者等を対象としたデジタル格差対策にも取り組まれない。
- (5) デジタル化・DX とともに、GX の推進についても位置付けられたい。